

# 運用報告書（全体版）

第16作成期

第91期(決算日2021年1月18日) 第92期(決算日2021年2月17日)  
第93期(決算日2021年3月17日) 第94期(決算日2021年4月19日)  
第95期(決算日2021年5月17日) 第96期(決算日2021年6月17日)

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／その他資産 (不動産投信・為替・オプション)
信託期間	2022年6月17日(金)まで (設定日：2013年6月28日(金)) 信託期間の延長が有利であると認めたときは、 信託期間を延長する場合があります。
運用方針	安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり 益の獲得をめざして運用を行います。
主要運用対象	主として外国投資信託証券である「CS グロー バル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド (適格機関投資家限定)」及び国内の証券投資 信託である「FOFs 用短期金融資産ファンド (適格機関投資家専用)」を主要投資対象とし ます。なお、短期金融商品等に直接投資する場 合があります。
組入制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設け ません。 ②外貨建資産への直接投資は行いません。 ③デリバティブの直接利用は行いません。 ④同一銘柄の投資信託証券への投資割合には 制限を設けません。 ⑤株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎月17日(休業日の場合は翌営業日)に決算を 行い、原則として以下の方針に基づき収益の分 配を行います。 ①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控 除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を 含みます。)等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、 市況動向等を勘案して決定します。ただし、 分配対象額が少額の場合は、分配を行わない ことがあります。 ③原則として、配当等収益を中心に分配を行 うことをめざします。ただし、基準価額水準等 によっては売買益(評価益を含みます。)が 中心となる場合があります。また、必ず分配 を行うものではありません。 ④収益分配にあつては信託財産内に留保した利 益については、運用の基本方針に基づき、元 本部分と同一の運用を行います。

## グローバル・リート・ トリプル・プレミアム・ファンド (毎月分配型) (愛称：トリプル・プレミアム)

追加型投信／内外／その他資産  
(不動産投信・為替・オプション)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「グローバル・リート・トリプル・プレミアム・  
ファンド(毎月分配型)(愛称：トリプル・プレミアム)」  
は、2021年6月17日に第96期決算を行いました。  
ここに第91期～第96期中の運用状況をご報告申し上げ  
ます。  
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し  
上げます。

**SBIアセットマネジメント株式会社**

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

 SBI Asset Management

ホームページから、ファンドの商品概要、  
レポート等をご覧いただけます。  
<http://www.sbiam.co.jp/>

## ○最近5作成期の運用実績

決算期	基準価額			投資信託証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率		
	円	円	%	%	百万円
第12 作成期	67期(2019年1月17日)	1,483	40 △ 2.9	94.8	21,001
	68期(2019年2月18日)	1,505	30	96.0	21,073
	69期(2019年3月18日)	1,509	30	97.1	20,595
	70期(2019年4月17日)	1,436	30 △ 2.8	96.0	19,484
	71期(2019年5月17日)	1,407	30	96.1	19,064
	72期(2019年6月17日)	1,412	30	96.8	19,031
第13 作成期	73期(2019年7月17日)	1,388	30	97.4	18,605
	74期(2019年8月19日)	1,393	30	97.1	18,537
	75期(2019年9月17日)	1,381	30	96.6	18,325
	76期(2019年10月17日)	1,374	30	96.5	18,136
	77期(2019年11月18日)	1,373	30	97.0	17,951
	78期(2019年12月17日)	1,338	30 △ 0.4	96.3	17,555
第14 作成期	79期(2020年1月17日)	1,337	30	95.9	17,583
	80期(2020年2月17日)	1,341	20	96.1	17,496
	81期(2020年3月17日)	706	10 △ 46.6	93.1	8,431
	82期(2020年4月17日)	701	10	97.1	8,104
	83期(2020年5月18日)	673	10 △ 2.6	98.8	7,761
	84期(2020年6月17日)	731	10 10.1	96.7	8,399
第15 作成期	85期(2020年7月17日)	702	10 △ 2.6	98.5	8,030
	86期(2020年8月17日)	728	10	97.0	8,279
	87期(2020年9月17日)	720	10	98.9	8,150
	88期(2020年10月19日)	688	10 △ 3.1	96.7	7,748
	89期(2020年11月17日)	731	10	96.6	8,060
	90期(2020年12月17日)	738	10	96.6	8,021
第16 作成期	91期(2021年1月18日)	741	10	97.7	7,909
	92期(2021年2月17日)	772	10	97.5	8,124
	93期(2021年3月17日)	793	10	96.6	8,223
	94期(2021年4月19日)	791	10	96.4	8,079
	95期(2021年5月17日)	789	10	95.6	7,976
	96期(2021年6月17日)	804	10	95.0	8,093

(注1) 期中騰落率は、各期末の基準価額(税込み分配金含む)を前期末基準価額(分配落)で除して算出したものです。

(注2) 当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

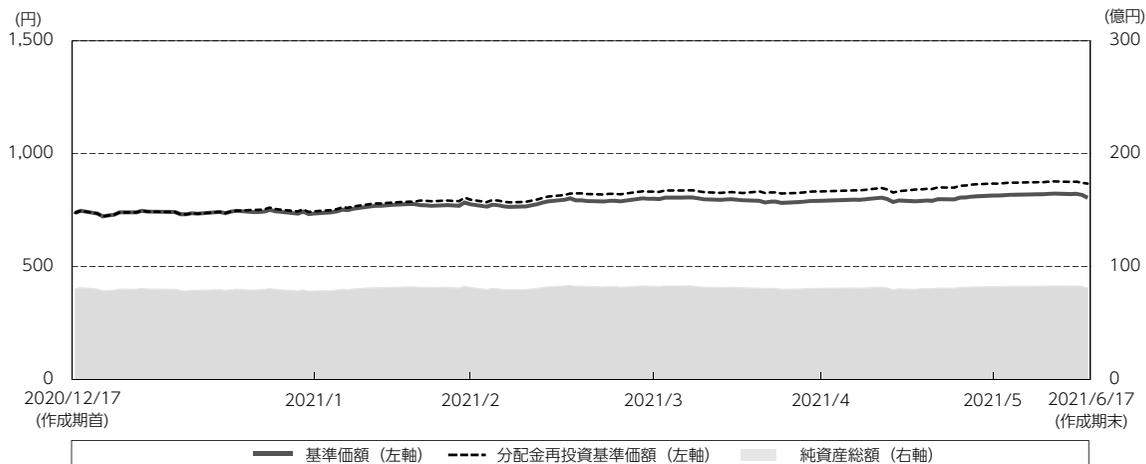
決算期	年 月 日	基準価額		投資信託証券 組入比率
			騰 落 率	
第91期	(期 首) 2020年12月17日	円 738	% —	% 96.6
	12月末	743	0.7	95.5
	(期 末) 2021年 1 月18日	751	1.8	97.7
第92期	(期 首) 2021年 1 月18日	741	—	97.7
	1 月末	735	△ 0.8	95.9
	(期 末) 2021年 2 月17日	782	5.5	97.5
第93期	(期 首) 2021年 2 月17日	772	—	97.5
	2 月末	776	0.5	97.8
	(期 末) 2021年 3 月17日	803	4.0	96.6
第94期	(期 首) 2021年 3 月17日	793	—	96.6
	3 月末	800	0.9	97.3
	(期 末) 2021年 4 月19日	801	1.0	96.4
第95期	(期 首) 2021年 4 月19日	791	—	96.4
	4 月末	791	0.0	96.7
	(期 末) 2021年 5 月17日	799	1.0	95.6
第96期	(期 首) 2021年 5 月17日	789	—	95.6
	5 月末	814	3.2	95.9
	(期 末) 2021年 6 月17日	814	3.2	95.0

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を記載しておりません。

## ■当期の運用状況と今後の運用方針（2020年12月18日から2021年6月17日まで）

### ○基準価額等の推移



第91期首：738円

第96期末：804円（既払分配金（税込み）：60円）

騰落率：17.6%

(注1) 当ファンドは、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2020年12月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

### ○基準価額の主な変動要因

#### 【基準価額の上昇要因】

- ・保有するグローバル・リートETFの価格が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・為替市場で円に対し米ドルが上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・為替取引・プレミアム戦略が奏功し、基準価額の上昇要因となりました。

#### 【基準価額の下落要因】

- ・グローバル・リートカバードコール戦略、通貨・カバードコールが不調となり基準価額の下落要因となりました。

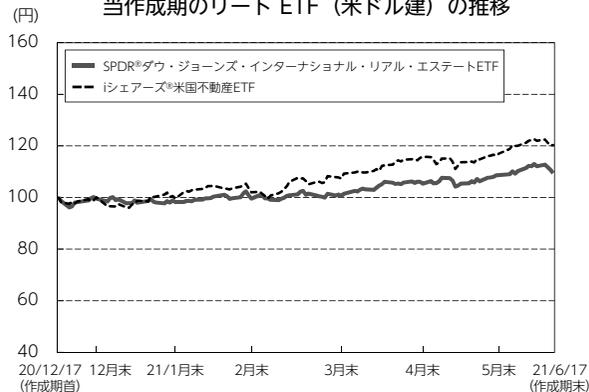
## ○投資環境

※以下のコメントの内容は、クレディ・スイス・グループからのコメントをもとにSBIアセットマネジメントが編集したものです。

### ○グローバル・リート市場

当作成期の先進国リート市場は、欧米を中心に新型コロナウイルスのワクチン接種が拡大したことに伴う景気回復期待や、主要株式市場の堅調な推移などが好感され、投資家のリスク選好姿勢が強まったことから、概ね上昇基調で推移しました。期初から2021年1月にかけては、米長期金利の上昇や個人投資家の「共闘」売買による米国株式市場の急落などが投資家心理を冷やし、リスク回避の動きが強まりましたが、その後、米国株が持ち直し堅調に推移したことなどが好感され、リートも上昇基調で推移しました。また、3月、5月には、ワクチン接種の拡大や景気対策により米景気回復が加速するとの見方から米長期金利が上昇基調となったことや、資源価格高騰や供給網ひっ迫の影響でインフレ懸念が強まり米金融緩和政策の早期縮小の可能性が浮上したことなどが重石となりました。当期末にかけては、ワクチン普及に伴う経済回復期待や、高値が警戒される株式に対し出遅れ感のあるリートが選好されたことなどから底堅く推移しました。

当作成期のリート ETF (米ドル建) の推移



※ブルームバーグ等のデータを基にSBIアセットマネジメントにて作成しております。

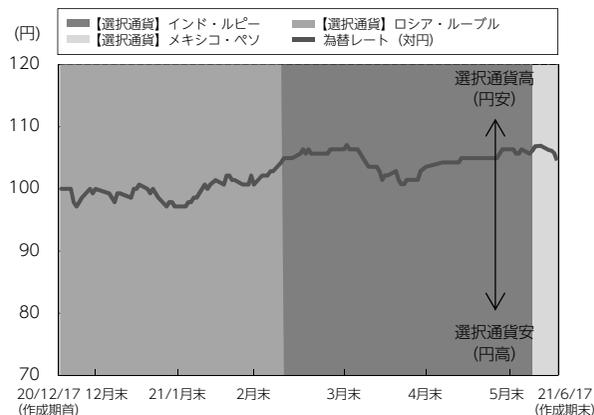
※祝日等の場合には前営業日の数値で計算しております。

※リートETFは、2020年12月17日を100として指数化しています。

## ○為替市場

2021年上半期の為替市場は、新型コロナウイルスの感染拡大後に続いていたドル安トレンドに下げ止まりが見られました。背景は、2020年12月以降、米国をはじめとしてワクチン接種が本格化し行動制限の緩和による経済再開への期待が高まったためです。これにより、歴史的な低水準にあった米国債券利回りの上昇が見られドルが買われました。一方、新興国通貨は、インド、ブラジルなどで新型コロナウイルスの感染再拡大が見られ、米欧等の先進国に比べてワクチン接種の遅れが予想されたことから、軟調傾向となりました。2021年1月から4月にかけてドル高となりましたが、その後再び長期債利回りをはじめ国債利回りが低下し6月初めにかけて一時的にドル安となりました。背景には、米FRB(連邦準備制度理事会)が雇用の回復を重視していることから、現在実施されている過去に例を見ない超金融緩和政策の漸進的な縮小を開始する時期が後ずれされるとの予想が強まったことなどが挙げられます。しかしながら、2021年6月以降、米FOMC(公開市場委員会)で政策金利の引上げ時期や金融緩和策の縮小開始時期予想が前倒しされたことから再び米ドル高傾向となり、当期を終えました。債券利回りでは、長期債利回りは低下しましたが、短中期債利回りは上昇し、米ドル高傾向を支えました。

当作成期の選択通貨の変遷及び為替レートの推移(対円)



※為替レート(対円)は、2020年12月17日を100とし、選択通貨が見直された場合は連続した指数となるよう算出しております。

## ○当作成期の選択通貨について

ロシア・ルーブル（2020年12月（当作成期初）～3月初旬）

ロシア・ルーブルは、原油価格を軸にロシアの対外関係と中央銀行の金融政策を材料として推移しました。期初から2021年1月末までは原油価格は堅調ながら、弱含みに推移しました。背景として、2020年12月はロシアによる米国政府機関へのハッキング疑惑に対する国際的な非難があり、2021年1月は反政府リーダーであるナバロフ氏を巡る政治的な混乱がありました。特にナバロフ氏の帰国後の1月下旬に大規模な抗議活動も見られルーブル安となりました。しかしながら、2月以降は特に目立った政治的な出来事はなく、コロナ禍からの世界的な景気回復と原油価格の上昇を受けルーブルは値を戻しました。中央銀行のインフレに対するタカ派的な姿勢も支援材料となりました。

インド・ルピー（2021年3月初旬～6月初旬）

2021年3月は海外投資家の株式市場への資金流入を背景に堅調に推移しました。4月に入り、インド中銀の国債購入計画発表による国債利回りの低下が悪材料となりました。さらに、新型コロナウイルス新規感染者数が劇的に増加したことから、行動制限による景気回復の遅れなどが懸念されてルピー安が進みました。しかしながら、行動制限の対象地域や方法が2020年の大流行期に比べ抑制されたものであったため、景気への悪影響が抑制されるとの期待が強まったことやワクチン接種の拡大を受け、4月下旬からはルピー高に転じました。5月以降は新規感染者数もピークアウトし、経済再開への期待が高まりルピー高傾向を維持しました。

メキシコ・ペソ（2021年6月中旬以降）

2021年6月16日の米FOMC（連邦公開市場委員会）を前に米国の金融緩和の縮小開始観測が強まったことから、相対的な高金利、商品需要により上昇傾向にあったメキシコペソはやや軟化しました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

### <当ファンド>

主として外国投資信託証券である「CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）」及び国内の証券投資信託である「FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とし、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。

### <CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）>

主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に米国リートETF、米国外リートETFと各ETFを対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション（通貨オプション）を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行ってまいりました。

### <FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）>

主要投資対象である「短期金融資産マザーファンド」の受益証券を高位に組入れ、これを維持しました。

「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化する中、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドにはベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、ベンチマーク、参考指数を特定していません。

## ○分配金

第91期から第96期における分配金は、当ファンドの分配方針に基づき、基準価額の水準や市況動向等を考慮した結果、合計60円（税引前）といたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
	2020年12月18日～ 2021年1月18日	2021年1月19日～ 2021年2月17日	2021年2月18日～ 2021年3月17日	2021年3月18日～ 2021年4月19日	2021年4月20日～ 2021年5月17日	2021年5月18日～ 2021年6月17日
当期分配金	10	10	10	10	10	10
(対基準価額比率)	1.332%	1.279%	1.245%	1.248%	1.252%	1.229%
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	10	10	10	10	10	10
翌期繰越分配対象額	2,473	2,463	2,453	2,443	2,433	2,423

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税込み）と一致しない場合があります。

## ○今後の見通しと運用方針

---

### ＜今後の見通し＞

先進国リート市場は、引き続き底堅く推移するとみられます。2021年6月のFOMCでは、当初2024年と予想されていた米政策金利の引き上げ時期が2023年中に前倒しされる見通しが示されたことに加え、FRB議長が量的緩和の縮小の議論を始めることにも言及したことを受けて金利先高観が強まりつつある中、ワクチン接種の進展に伴う経済回復期待や緩和的な金融政策などに支えられる展開が続くそうです。また、コロナ前の水準を回復し高値が警戒される米国株に対し、比較的出遅れ感のあるリートは上昇余地が残っているとの見方もあります。他方、高値警戒感やインフレ加速による金利上昇の可能性は懸念材料として留意が必要とみています。また、今後の米量的緩和の縮小を開始する時期や、そのペースをめぐる議論などにも一定の影響を受ける可能性が考えられます。

### ＜今後の運用方針＞

引き続き、主としてCS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）への投資を通じ、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。

### ○CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）

主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に米国リートETF、米国外リートETFと各ETFを対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション（通貨オプション）を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。

### ○FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）

主として、短期金融資産 マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の短期金融資産など（短期公社債及び短期金融商品を含みます。）を中心に投資を行います。

# ○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年12月18日～2021年6月17日)

項 目	当 作 成 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 )  ( 受 託 会 社 )	5 ( 2 ) ( 2 )  ( 0 )	0.625 (0.302) (0.302)  (0.022)	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料  ( 投 資 信 託 証 券 )	1  ( 1 )	0.088  (0.088)	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
(c) そ の 他 費 用  ( 監 査 費 用 ) ( 印 刷 ) ( そ の 他 )	0  ( 0 ) ( 0 ) ( 0 )	0.015  (0.002) (0.013) (0.000)	(c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等 信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	6	0.728	
作成期中の平均基準価額は776円です。			

(注1) 作成期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

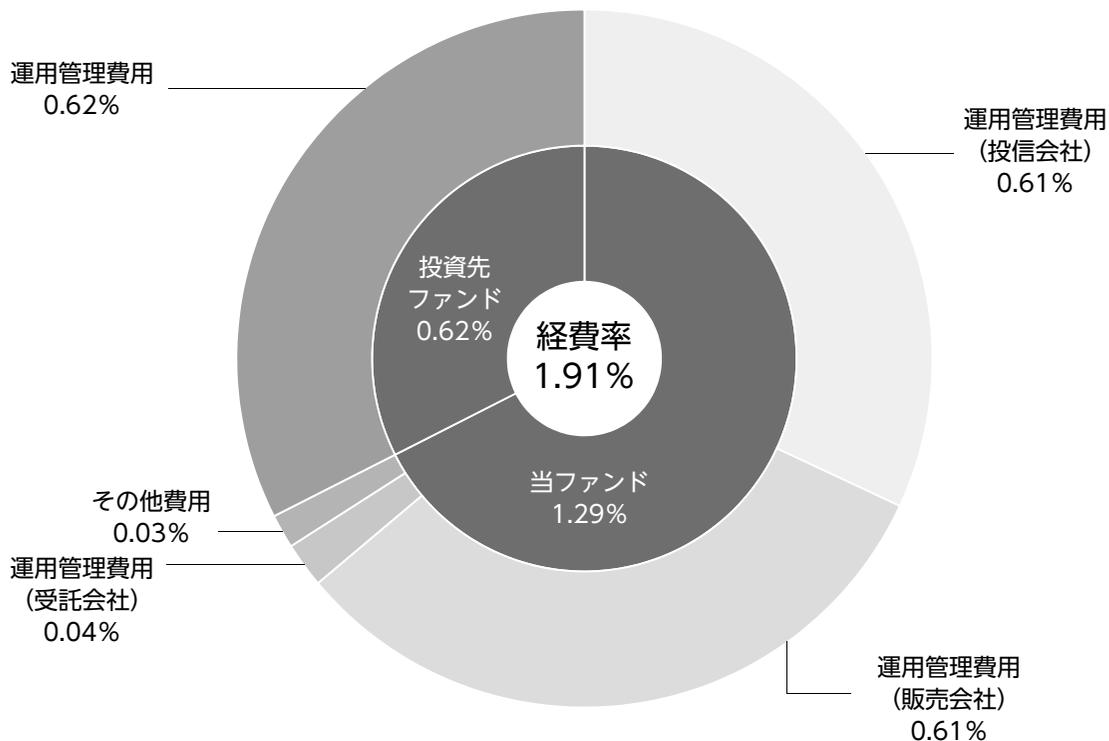
(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**経費率（年率）**は**1.91%**です。



(単位：%)

経費率 (①+②)	1.91
①当ファンドの費用の比率	1.29
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.62

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2020年12月18日～2021年6月17日)

### 投資信託証券

		第91期～第96期			
		買付額		売付額	
		口数	金額	口数	金額
外国(邦貨建)	CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)	口	千円	口	千円
		—	—	2,820,725	1,413,883

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2020年12月18日～2021年6月17日)

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2021年6月17日現在)

### ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当作成期末		
	口数	評価額	比率
CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)	口	千円	%
	14,034,097	7,688,580	95.0
FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)		987	0.0
合計	15,035,299	7,689,567	95.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注2) 単位未満は切捨て。

### 投資信託財産の構成

項目	当作成期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円	%
	7,689,567	93.6
コール・ローン等、その他	527,646	6.4
投資信託財産総額	8,217,213	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

## ○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

	(2021年1月18日)、	(2021年2月17日)、	(2021年3月17日)、	(2021年4月19日)、	(2021年5月17日)、	(2021年6月17日)現在
項目	第91期末	第92期末	第93期末	第94期末	第95期末	第96期末
(A)資産	8,052,412,282円	8,252,695,638円	8,352,807,613円	8,206,102,341円	8,115,735,778円	8,217,213,011円
コール・ローン等	326,075,826	333,958,532	411,203,960	416,388,816	490,796,908	527,645,114
投資信託受益証券(評価額)	7,726,336,456	7,918,737,106	7,941,603,653	7,789,713,525	7,624,938,870	7,689,567,897
(B)負債	143,143,581	128,564,894	129,239,111	126,396,379	139,301,881	123,874,708
未払収益分配金	106,796,321	105,290,995	103,760,862	102,094,067	101,097,493	100,638,495
未払解約金	27,350,489	14,575,261	17,010,887	14,116,146	29,414,828	13,287,420
未払信託報酬	8,755,910	8,232,786	7,791,326	9,298,008	7,741,540	8,716,514
未払利息	893	914	1,126	1,140	1,344	1,445
その他未払費用	239,968	464,938	674,910	887,018	1,046,676	1,230,834
(C)純資産総額(A-B)	7,909,268,701	8,124,130,744	8,223,568,502	8,079,705,962	7,976,433,897	8,093,338,303
元本	106,796,321,473	105,290,995,529	103,760,862,273	102,094,067,393	101,097,493,507	100,638,495,196
次期繰越損益金	△ 98,887,052,772	△ 97,166,864,785	△ 95,537,293,771	△ 94,014,361,431	△ 93,121,059,610	△ 92,545,156,893
(D)受益権総口数	106,796,321,473口	105,290,995,529口	103,760,862,273口	102,094,067,393口	101,097,493,507口	100,638,495,196口
1万口当たり基準価額(C/D)	741円	772円	793円	791円	789円	804円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

(注1) 当ファンドの第91期首元本額は108,665,664,761円、第91～96期中追加設定元本額は6,190,174,186円、第91～96期中一部解約元本額は14,217,343,751円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第91期末0.0741円、第92期末0.0772円、第93期末0.0793円、第94期末0.0791円、第95期末0.0789円、第96期末0.0804円です。

(注3) 当作成期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は92,545,156,893円です。

## ○損益の状況

第91期(2020年12月18日～2021年1月18日)、第92期(2021年1月19日～2021年2月17日)  
 第93期(2021年2月18日～2021年3月17日)、第94期(2021年3月18日～2021年4月19日)  
 第95期(2021年4月20日～2021年5月17日)、第96期(2021年5月18日～2021年6月17日)

項目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
(A)配当等収益	△ 32,527円	△ 27,697円	△ 25,466円	△ 27,426円	△ 24,717円	△ 31,690円
支払利息	△ 32,527	△ 27,697	△ 25,466	△ 27,426	△ 24,717	△ 31,690
(B)有価証券売買損益	141,475,965	439,526,964	327,900,949	99,384,353	84,331,780	261,243,391
売買益	143,046,912	441,311,342	332,646,733	99,595,312	84,156,038	263,517,139
売買損	△ 1,570,947	△ 1,784,378	△ 4,745,784	△ 210,959	△ 175,742	△ 2,273,748
(C)信託報酬等	△ 8,995,878	△ 8,457,758	△ 8,001,298	△ 9,510,116	△ 7,901,198	△ 8,900,672
(D)当期繰越損益金	132,447,560	431,041,509	319,874,185	89,846,811	76,405,865	252,311,029
(E)前期繰越損益金	△ 17,289,863,307	△ 16,811,098,787	△ 15,978,056,320	△ 15,252,285,292	△ 14,876,706,951	△ 14,580,139,343
(F)追加信託差損益金	△ 81,622,840,704	△ 80,681,516,512	△ 79,775,350,774	△ 78,749,828,883	△ 78,219,661,031	△ 78,116,690,084
(配当等相当額)	( 26,473,215,757)	( 26,047,380,625)	( 25,564,933,784)	( 25,052,183,927)	( 24,706,433,330)	( 24,493,617,452)
(売買損益相当額)	(△108,096,056,461)	(△106,728,897,137)	(△105,340,284,558)	(△103,802,012,810)	(△102,926,094,361)	(△102,610,307,536)
(G)計(D+E+F)	△ 98,780,256,451	△ 97,061,573,790	△ 95,433,532,909	△ 93,912,267,364	△ 93,019,962,117	△ 92,444,518,398
(H)収益分配金	△ 106,796,321	△ 105,290,995	△ 103,760,862	△ 102,094,067	△ 101,097,493	△ 100,638,495
次期繰越損益金(G+H)	△ 98,887,052,772	△ 97,166,864,785	△ 95,537,293,771	△ 94,014,361,431	△ 93,121,059,610	△ 92,545,156,893
追加信託差損益金	△ 81,676,333,610	△ 80,786,807,507	△ 79,879,111,636	△ 78,851,922,950	△ 78,320,758,524	△ 78,217,328,579
(配当等相当額)	( 26,419,722,851)	( 25,942,089,630)	( 25,461,172,922)	( 24,950,089,860)	( 24,605,335,837)	( 24,392,978,957)
(売買損益相当額)	(△108,096,056,461)	(△106,728,897,137)	(△105,340,284,558)	(△103,802,012,810)	(△102,926,094,361)	(△102,610,307,536)
繰越損益金	△ 17,210,719,162	△ 16,380,057,278	△ 15,658,182,135	△ 15,162,438,481	△ 14,800,301,086	△ 14,327,828,314

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 第91期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(26,473,215,757円)および分配準備積立金(53,303,415円)より分配対象収益は26,526,519,172円(10,000口当たり2,483円)であり、うち106,796,321円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

(注5) 第92期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(26,047,380,625円)より分配対象収益は26,047,380,625円(10,000口当たり2,473円)であり、うち105,290,995円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

(注6) 第93期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(25,564,933,784円)より分配対象収益は25,564,933,784円(10,000口当たり2,463円)であり、うち103,760,862円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

(注7) 第94期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(25,052,183,927円)より分配対象収益は25,052,183,927円(10,000口当たり2,453円)であり、うち102,094,067円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

(注8) 第95期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(24,706,433,330円)より分配対象収益は24,706,433,330円(10,000口当たり2,443円)であり、うち101,097,493円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

(注9) 第96期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(24,493,617,452円)より分配対象収益は24,493,617,452円(10,000口当たり2,433円)であり、うち100,638,495円(10,000口当たり10円)を分配金額としております。

## <参考情報>

### 主要投資対象の投資信託証券の概要

名称	CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)
形態	ケイマン諸島籍外国投資信託受益証券/円建て
運用目的	主として担保付スワップ取引を対象とし、実質的に、iシェアーズ®米国不動産ETF※1(以下、米国リートETFといたします)、SPDR®ダウ ジョーンズ インターナショナル リアル エステートETF※2(以下、米国外リートETFといたします)と米国リートETF、並びに米国外リートETFを対象としたオプション取引に加え、米ドル売り選択通貨買いの為替予約取引、並びに円に対する当該選択通貨のコール・オプション(通貨オプション)を売却した投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。
管理報酬等	純資産総額の年0.64%程度(うち、担保付スワップに係る費用年率0.44%、投資助言会社の報酬年率0.20%) 上記の他、信託財産にかかる租税、信託の事務の処理に関する費用、及び信託財産の監査に要する費用などを負担します。
決算日	毎年5月末日
管理会社	クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッド
投資助言会社	ミレニアム・グローバル・インベストメンツ・リミテッド
備考	担保付スワップ取引の相手方は、日々の株式オプションの評価、通貨オプションの評価、為替予約取引の評価及び担保付スワップ取引の評価も行っており、当該評価に基づいて当外国投資信託証券の純資産価額は計算されます。担保付スワップの取引の評価には、株式や通貨予約取引等へ投資する場合にかかるコストや税金等が反映されます。

※1 iシェアーズ®米国不動産ETFは、ダウ・ジョーンズ米国不動産指数の価格及び利回りの実績に概ね対応する投資成果(手数料及び経費控除前)をあげることを目標としたETF(上場投信)です。iシェアーズ®米国不動産ETFは、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズにより運用されており、ニューヨーク証券取引所 Arca 市場に上場されています。

\*ダウ・ジョーンズ(Dow Jones)は、Dow Jones & Company のサービスマークであり、iシェアーズ・ファンドは、Dow Jones & Company が出資、保証、発行、販売、販売の促進を行っているものではありません。同社はまた、iシェアーズ・ファンドへの投資の妥当性に関していかなる意見も表明していません。

※2 SPDR®ダウ・ジョーンズ・インターナショナル・リアル・エステートETFは、ダウ・ジョーンズ・グローバル(除く米国)セレクト・リアル・エステート・セキュリティーズ指数の価格と利回りに、経費控除前で、連動する投資成果を上げることを目標とします。売買回転率の抑制、トラッキングエラーの最小化、コストの低減を追求する運用手法をとります。ダウ・ジョーンズ・グローバル(除く米国)セレクト・リアル・エステート・セキュリティーズ指数は、米国外で上場する不動産関連証券の動きをカバーする浮動株調整済み時価総額指数です。

CS グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)の状況  
2021年6月17日現在入手している最新(2020年5月31日現在)の状況です。

## 貸借対照表

	2020年5月31日 (円)
<b>資産</b>	
担保付スワップの公正価値(費用: ¥57,248,404,159)	8,583,794,155
未収利息	1,940,881
<b>資産合計</b>	<u>8,585,735,036</u>
<b>負債</b>	
未払報酬等	1,940,881
<b>負債合計</b>	<u>1,940,881</u>
<b>純資産</b>	<u>8,583,794,155</u>
買戻可能な受益証券保有者に帰属する純資産	<u>8,583,794,155</u>
発行済投資信託証券	<u>20,399,235</u>
一口当たり純資産額	<u>420.79</u>

## 包括利益計算書

2020年5月31日

(円)

受取クーポン	4,650,074,648
担保付スワップの投資純損失	(8,710,929,420)
投資純収益	<u>(4,060,854,772)</u>
営業費用	(97,990,502)
費用合計	<u>(97,990,502)</u>
買戻可能な受益証券保有者に帰属する純資産の変動額	<u>(4,158,845,274)</u>

## FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）の状況

2021年6月17日現在入手している最新（第10期決算日（2020年9月25日現在））の状況です。

### ○1万口当たりの費用明細

（2019年9月26日～2020年9月25日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 14	% 0.143	(a)信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,888円です。 信託報酬に係る消費税は当（作成）期末の税率を採用 しています。
（投 信 会 社）	（ 11）	（0.110）	委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等 の対価
（販 売 会 社）	（ 1）	（0.011）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファン ドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	（ 2）	（0.022）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.005	(b)その他費用＝〔期中のその他費用〕÷〔期中の平均 受益権口数〕×10,000
（監 査 費 用）	（ 1）	（0.005）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係 る費用
（そ の 他）	（ 0）	（0.000）	その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	15	0.148	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファン  
ドに対応するものを含みます。

（注2）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

### ○組入資産の明細

#### 親投資信託残高

	当期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
短期金融資産 マザーファンド	千口 113,922	千口 15,377	千円 15,568

（注）親投資信託の当期末における受益権総口数は9,234,430千口です。

## ○投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
短期金融資産 マザーファンド	千円 15,568	% 99.9
コール・ローン等、その他	21	0.1
投資信託財産総額	15,589	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月25日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	15,589,372円
コール・ローン等	20,821
短期金融資産 マザーファンド(評価額)	15,568,469
未 収 入 金	82
(B)負 債	13,176
未 払 信 託 報 酬	11,101
そ の 他 未 払 費 用	2,075
(C)純 資 産 総 額(A - B)	15,576,196
元 本	15,767,297
次 期 繰 越 損 益 金	△ 191,101
(D)受 益 権 総 口 数	15,767,297口
1万口当たり基準価額(C / D)	9.879円

## ○損益の状況 (自2019年9月26日 至2020年9月25日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	29,549円
売 買 益	19,700
売 買 損	9,849
(B)信 託 報 酬 等	△ 57,669
(C)当 期 損 益 金 ( A + B )	△ 28,120
(D)前 期 繰 越 損 益 金	△ 28,372
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	△ 134,609
( 配 当 等 相 当 額 )	( 748,899)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 883,508)
(F) 計 ( C + D + E )	△ 191,101
(G)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 ( F + G )	△ 191,101
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 134,609
( 配 当 等 相 当 額 )	( 748,899)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 883,508)
分 配 準 備 積 立 金	12,737
繰 越 損 益 金	△ 69,229

(注1) (A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

当ファンド（FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用））が投資対象としている「短期金融資産 マザーファンド（第13期決算日（2020年9月25日現在））」の組入資産の内容等の状況

## ○1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2019年9月26日~2020年9月25日)		
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 0	% 0.000	(a)その他費用＝〔期中のその他費用〕÷〔期中の平均 受益権口数〕×10,000
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（0.000）	その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	0	0.000	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注2）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ○組入資産の明細

当期末における該当事項はありません。

※日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

## ○投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 9,350,286	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	9,350,286	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年9月25日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	9,350,286,816円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	9,350,286,816
(B)負 債	1,441,891
未 払 解 約 金	1,430,082
未 払 利 息	11,809
(C)純 資 産 総 額(A - B)	9,348,844,925
元 本	9,234,430,779
次 期 繰 越 損 益 金	114,414,146
(D)受 益 権 総 口 数	9,234,430,779口
1万口当たり基準価額(C / D)	10,124円

## ○損益の状況 (自2019年9月26日 至2020年9月25日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	△ 8,256,605円
受 取 利 息	62,186
支 払 利 息	△ 8,318,791
(B)そ の 他 費 用	△ 20,510
(C)当 期 損 益 金 ( A + B )	△ 8,277,115
(D)前 期 繰 越 損 益 金	112,176,004
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	487,039,330
(F)解 約 差 損 益 金	△ 476,524,073
(G)計 ( C + D + E + F )	114,414,146
次 期 繰 越 損 益 金 ( G )	114,414,146

(注1) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注2) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。